

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

京都府立向日が丘支援学校

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			0.40		0.50	3.5
1 音環境		3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.30	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.30	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	-	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.4	0.35	-	-	2.4
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.60	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.40	-	-	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式	天井の高い体育館には、床吹き出し空調方式を採用	1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.8	0.25	-	-	3.8
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	
1 昼光率	普通教室で算定 昼光率=3.8%(根拠資料1)	5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	カーテンと庇を設置して、昼光制御(根拠資料8)	4.0	1.00	-	-	
3.3 照度	特別教室・生徒教室等について、500lx以上で設定(根拠資料9)	4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.5	0.25	-	-	3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	内装材は、全てF☆☆☆☆を使用(根拠資料10)	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		2.3	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	全棟禁煙(配置図)	5.0	0.50	-	-	
Q2 総合性能		3.4	0.30	0	0.50	3.2
1 機能性		3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	最低限レベルを満たしている。(根拠資料11)	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	教室の天井高さは、2.7mを確保	3.0	0.50	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	各教室に掃除用具入れを設置	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	RC打ち放しの上複層塗材E	3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:ビニル床シート、壁:石膏ボードの上EP-G、天井:化粧ボード	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:VLP、排水管:VP、DVLP	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	
1 階高のゆとり		1・2階:4m, 3階:勾配屋根により、階高確保(立面図・断面図)	5.0	0.60	-	
2 空間の形状・自由さ		1階を基準階として算定。(根拠資料2)	3.0	0.40	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	
Q3 密着環境(敷地内)			3.0	0.30	-	3.3
1 生物環境の保全と創出		既存樹木はなるべく存置する。敷地の達成は無し。(根拠資料3)	2.0	0.30	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		長岡京市景観計画区域内における行為届適合済(根拠資料12)	5.0	0.40	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域に開かれた広場やコミュニティ空間を設置。防犯カメラの設置	4.0	0.50	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		キャブドレーや歩廊を設け、夏期における日陰の形成に努めている。	2.0	0.50	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						3.7
LR1 自然エネルギー			5.0	0.40	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		モデル建物法入力支援ツール(平成28年省エネ基準用)BPI=0.70	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用		太陽光発電設備	3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化		モデル建物法入力支援ツール(平成28年省エネ基準用)BEI=0.70	4.0	0.50	-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	
集合住宅の評価			-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	
LR2 資源・エネルギー			3.4	0.30	-	3.8
1 水資源確保			3.4	0.20	-	3.4
1.1 節水		節水型便器の採用	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.60	-	3.9
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		リサイクル資材を6品目用いている。(仕上特記凡例表、外構詳細)	5.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		使用比率=18.36%(根拠資料7)	4.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+塗装、GL工法、OAフロア(仕上表1~4)	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤、シーリング材、塗料等(根拠資料10)	5.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	
1 消火剤			-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		発泡ウレタンフォーム使用(根拠資料10-5)	5.0	0.50	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境			3.4	0.30	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		換算スコア=3.4	3.4	0.33	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		卓越風向き:東北東(京都)気象庁(根拠資料6)	3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減		設置義務はないが、雨水流出抑制対策を実施(根拠資料6)	4.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制		適切な量と位置に駐輪場と駐車場を配置している。(配置図)	5.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		ゴミの分別回収が容易である。(配置図)	4.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	
1 騒音		規制対象建物以外	3.0	1.00	-	
2 振動			-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	
1 風害の抑制		風害対策に対する要請なし。	3.0	0.60	-	
2 砂塵の抑制		グラウンドの舗装は、クレイ舗装を採用	3.0	0.20	-	
3 日照障害の抑制		日影規制が無い地域	3.0	0.20	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明を行っていない。(配置図)	5.0	0.70	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

京都府立向日が丘支援学校

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	-	-	○	○	○	-	-	-	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0		-	2.0	2.0	-	-	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	4.0		-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0		-	2.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	

LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	3.0		-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○

LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	3.0		○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.1 有害物質を含まない材料の使用	16.0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	-	3.0	1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.5	窓の日射熱取得率(η)	0.6
U値(W/m2K)	窓システム 4.8	屋根	0.7
		外壁	1.2
		床	2.7
住戸部分 窓システムU値	-	外皮UA値	-
		ηAC	-
		ηAH	-
屋光率	3.6%		
自然換気有効開口面積率	1/20以上		

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0㎡/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡	ツイン	.0㎡
--------	-------	----	-------	------	-----	-----	-----

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	0.0 VA/㎡
---------	----------

1.2.1 広さ感・景観

天井高	2.7 m
-----	-------

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	%	レストスペース	%
------------	---	---------	---

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	0 年
--------	-----

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	20 年
--------	------

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	10 年
--------	------

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

3.1.1 階高のゆとり

階高	4 m
----	-----

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	19.0%
-------	-------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	- N/m2
-----	--------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	21%	建物緑化指数	0%
--------	-----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	69%	水平投影面積率	11%	地表面対策面積率	17%	舗装面積率	24%
-----	-----	---------	-----	----------	-----	-------	-----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.70	断熱性能等級	等級2 相当
----------------------	------	--------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	105364 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	100.0%	採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数	95.0%	通風を満たす住戸数	0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI _m	非住宅 0.70	住宅	-	太陽光	10.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
----------------------	----------	----	---	-----	--------	------	------	-----	------

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	再生骨材の路盤社エコマーク商品	ビニルクロス、岩盤吸音材等の特定品目等	-
--------	-----------------	---------------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	18.3%
------	-------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1
---------------	---	--------------	---

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	
---------------	---	--------------	--

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	93%	隣接間隔指標Rw	3.60
地表面対策面積率	25.0%	屋根面対策面積率	0.0%
		外壁面対策面積率	0.0%
見付面積S _b	2.178㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _a	3.11 m
		基準高さH _b	7.45 m
緑地	2.112㎡	水面	㎡
		保水性対策面	㎡
		高反射対策面	㎡
		再帰性反射対策面	㎡